



# キンシャサの軌跡



JICAコンゴ民主共和国事務所通信

2014年1月 Vol. 7

## Kinky Shot! - 今月のキンシャサ -

### 新年のご挨拶



↑ 光り回るスシ屋

↑ 2013年に設置されたカラフルな噴水(断水で時々止まるが一応作動)  
2013年に設置された回り光る信号ロボット(国産、太陽電池)→



早いもので「キンシャサの軌跡」刊行から1年。振り返れば、ルブンバシへの官民合同ミッション、アフリカ最長の吊り橋マタティ橋30周年、職業訓練校建設着工、職業訓練と保健人材プロジェクトのフェーズ1終了、浄水場と保健人材学校の完工、コンゴ共和国への官民合同ミッション等、色々とありました。また、キンシャサにスシ屋が2軒でき、4800MWの巨大水力ダム発電建設合意がなされ、11月には国軍が東部の反政府軍を撃破し、和平と開発に向けた一筋の光が見えてきました。2030年キンシャサはアフリカ最大の人口都市になると言われています。このまま突っ走っていくのか、ペースダウンするのか、まだまだ目が離せません。JICAも微力を尽くしたいと思えます。今年もどうぞ宜しくお願致します。  
JICAコンゴ民主共和国事務所長 小畑 永彦

## ファッション・キノワーズ

## Kinky Life! - キンシャサで生き

キンシャサの人たち(キノワーズ)のファッションセンスはずば抜けている。道を行き交う人を見ていると、「なかなか素敵♪」「どしてそれ?」「そうきたか...」、と目にも心にもとても楽しい。

さて、キンシャサでお洒落☆な服を探すなら、できたて「ZARA」へ。見るからに胡散臭い(笑)が、もぐりではない。1500円〜と価格もお手頃。ただ、よく見るとどこかの国の「セール価格」値札が。巡り巡ってキンシャサに辿り着いた世界中のZARA...。よく言えば柄もサイズも「1点もの」?!

気を取り直して、「これは!」という勝負の日には「Vlisco」。高級感溢れる店内に足を踏み入ると、アフリカ柄でありながらモード感漂う布に目移り。ショーウィンドウのドレスに魅せられ、ついマネキン買いしてしまいそうになるが、そこはお財布と要相談! 正直、半端な値段じゃない。

涙を呑んでVliscoを後にし、しつこく素敵なお布を探す。最後の望みをかけるのは、海じゃないのに「ビーチ」と呼ばれるコンゴ河の船着き場。コンゴ共を含む近隣から輸入されてくるアフリカンなお布が卸値で買える。しかし、売り手はコンゴの肝玉おかあちゃん達。気合を充実させて行かないと、掘り出し物には出会えません! ちなみに最近の流行は激しくリアルなおビ柄...



↑ 日本でもおなじみ「ZARA」と  
↓ オランダ系高級テキスタイルメーカー「Vlisco」



## Eat Kin! - キンシャサで食べる -

### 世界のカイザーv.s.庶民の味方



↑ サーマンベグルとCafé Groument(奥)  
↓ 庶民の味方 Chez Victoire



キンシャサではよく路上でバゲット(フランスパン)が売られている。残念ながら当国はベルギー風味なのでフランスのそれほど美味しくない(失礼!)。それでも、最近とびきりのパン屋さんが続々オープンしたので、一挙ご紹介♪♪

まずは日本でもおなじみ、世界の「Eric Kayser」。店の扉には進出している都市が列記されている。パリ、東京、ニューヨーク...キンシャサはサフ・サハラ・アフリカではダカールに続く第2号店。何故キンシャサ...?という疑問に気をとられつつ、一歩入れればそこは外の喧騒がウノのような別世界。あ〜癒される〜♪。全部おいしそうで目移りするが、お薦めはCafé groument。キンシャサではなかなか味わえないフランスっぽいCaféにたくさんのPetits gateauxがついてきて(写真奥)、お得感満載☆手前のベグルもオススメ♪

この対極にあるのが、庶民の味方「Chez Victoire」。山盛りで売られているパンは、全て市内にある工場にて製造されている。ただのドーナツ200フラン(約20円)、クロワッサン500フラン(約50円)、から揚げ+ポテトフライが入った高カロリーサンドイッチが2,500フラン(約250円)。なお、何故かおびただしい数の卵も売っている。パン作るときに余ったの...かな?

(前回の続き)・・・また電話だ。やれやれ、今度は何?「JICAの研修を実施する予定の警察研修センターが、大統領府に乗っ取られた!」

確認のため現場へ現地職員を送る。「門前払いされました!」憤慨して帰ってきた。同行した「怒鳴る」警察官も怒り心頭のご様子。「☆×□◇♠...!」もはや何を言っているかわからない。それじゃあ、今度はこちらから。所長が警察長官に電話、「今から行きます...!」

JICAの実施する研修は「長期基礎研修」と呼ばれ、6か月の基本的な内容を、研修を受けたことが無い警察官に対し、年約1,000名のペースで実施している。研修実施に必要な資機材を調達することに加え、既存の警察研修センターを長期の研修に耐え得るよう最低限の改修も行う。よって、これまで研修実施に活用してきたセンターは、他より設備が整っている。大統領府はこれに着目、一時的に大統領憲兵隊の訓練に使用しているという(仏語圏サミットという大型国際会議の警備訓練)。活用してもらうのは結構だけど、次の研修の準備が...と警察長官に訴えたところで、相手は大統領。さすがの警察長官もお手上げ。6か月を諦め5か月に、必要なインフラ整備は研修と同時に並行で行った。

山あり谷ありでなんとか始まった警察研修。無事、研修期間が終了し閉講式も終わり...おや、また電話だ。うわっ!警察長官だ。所長居ないっていうのに!「今から来られますか?」静かな口調がなおさら怖い。(続く)



乗っ取られたセンターでの閉講式で行われた治安維持のデモンストレーション様になってる!!!

根づけ! コンゴに広がるホンダイズム

コン月のイベント



真紅の二輪車と麗しのコンパニオン



白熱講義! 魂は伝わったか!?

国立職業訓練校、通称INPP。コンゴの産業を担う技術者たちの学び舎は、いつもベテラン技術者と油のにおいが充満、殺風景な校内だ。だがこの日はかりは違う。ずらっと並ぶピカピカのバイク、旗にひらめくHONDAロゴ、...そして真っ赤なコスチュームに身を包んだコンゴ人美女多数☆

そう、去る12月3日は南アフリカ・ホンダ社(注)からINPPへの機材贈呈式典だった。JICAが長く支援してきたINPPに、なんと日本企業から二輪車、エンジン、発電機などの研修用機材が提供されたのだ! 本当はとても偉いコンゴ政府要人も、今日はずっといした笑みを浮かべながらバイクを優しくなでなで♪

式典は進み、コンゴ政府関係者、駐コンゴ民富永大使、南アフリカ・ホンダ社の中村社長スピーチが続く。そして最後に司会に呼ばれたのは「チーム・ホンダ」! ホンダ社の技術者と16人のINPP技術者たちだ。この式典の2週間ほど前、ホンダの技術者が派遣され、コンゴ全国から集ったINPP技術者への研修も行われていたのだ。日本の技術者魂の片鱗に触れた彼らは、これから各地のINPP地方校で現地の技術者育成を担う。ホンダの機材とともに。

注: 本田技研工業株式会社の南アフリカ共和国における現地法人 (HONDA SOUTHERN AFRICA (PTY) LTD.)

愛すべき? コンゴ人

編集後記



所属: JICA コンゴ民事務所  
氏名: イベット(左)  
マリアンヌ(右)

今月は輝くJICA女性スタッフ72名☆

社交的な美人イベット。趣味はアクション映画と史書。JICA歴4年。2014年1月セネガル事務所研修を受け、更に磨きをかける予定。

道行く人が必ず振り返るコンゴ美人のマリアンヌ。ステーキヤリボケ(バナナの葉で包み蒸した魚のコンゴ料理)がお得意。JICA歴6年。

キンシャサの新しい一面、如何でしたか? この街、この国で、新しい店、新しい道、新しい出会いが未来を築いていく様子に寄り添っていただけることは、実はとても贅沢なことだと思っています。本通信がその「贅沢」のちょっぴりおすそ分けとなっていれば、こんな嬉しいことはありません。創刊1周年となりましたが、ご希望のテーマ、ネタ、コンゴ民に関する素朴な質問、などございましたら遠慮なくご連絡くださいませ♪

最後に、創刊1周年を記念して2013年コンゴ民年表を作成しました。あわせてお楽しみ頂ければ幸いです。